

災害支援・教育復興にむけて

つなぐ



日教組災害対策本部

〒101-0003

東京都千代田区一ツ橋 2-6-2

HP:<http://www.jtu-net.or.jp/>

## 日教組独自ボランティア福島支援チーム 活動報告

### ★ はじめに

2011年7月27日(水)～31日(日)の5日間、福島支援チームとして神奈川県教組、愛知県教組、新潟高教組退職者の仲間と福島県で教育支援のボランティア活動をしました。

活動場所は、あづま総合運動公園(福島市)、稲川原仮設住宅集会所(郡山市)、ビックパレット仮設住宅集会所(郡山市)の3ヶ所で、子どもたちの学習支援、心のケア、ストレス解消につながる遊び・話し相手といった教育支援を中心に活動を展開しました。

期間中、福島県の山間部での豪雨、沿岸部では震度5強の揺れを記録する余震など、自然の脅威によるボランティア活動への影響も心配されましたが、メンバー全員が事故やケガもなく無事にボランティア活動を遂行することができました。

各班長からの活動報告をもとに福島県での活動内容をお知らせいたします。

### ● あづま総合運動公園

期間中、午前中は子どもたちの勉強、夏休みの宿題をみるといった学習支援。午後からは子どもたちと室内遊びをするという形を基本パターンとしました。

「学習スペースに学校の先生たちがきています、勉強や夏休みの宿題のわからないことをどんどん質問しましょう！」といったアナウンスを施設の方がいれてくださったことで、保護者から送られてきた子どもが勉強道具を抱えて学習スペースにトコトコとやってくる姿がみられました。

「ちゃんと勉強してるか？」と時折お父さん、お母さんたちも現れ、保護者からは勉強を見てもらえる場所としてだんだんと認知されてきていることが実感できました。「アナログ時計を読めない子どもが多いのでは？」と感じたメンバーは早速100円ショップで目覚まし時計を買い求め、次の日ゲーム感覚で子どもたちに時計の読み方や60進法を教えていました。

室内遊びの時間では、メンバーが子どもたちと割り箸ゴム鉄砲や折り紙手裏剣といった手作りおもちゃづくり、ダンボールでの基地づくりに励んだり、初めてオセロで遊ぶ子どもにルールや必勝法、けん玉初体験の子どもにコツなどを伝授しました。

スペースの関係上、黙々と勉強する子どもと元気に遊びまわる子どもたちが一緒になってしまう時があり、隣で一生懸命勉強する子どもの集中を妨げたり、遊びが盛り上がったときにうるさくしてしまっていた場面もあったのではと反省しています。

### ● 稲川原仮設住宅集会所

仮設住宅には緊急時避難準備地区(福島第一原発から20～30km)となっている川内村の人90世帯ほどが暮らしており、毎日、保育園児から中3まで15人程度が集会所にやって来ました。ここでは自治会長さんが元気にあいさつすることを大切にしており、子どもたちの「おはようございます」という元気な声で一日が始まりました。

一日のスケジュールとして、午前中は学校の宿題を主とした勉強の時間。午後はオセロ、けん玉、ぬりえ、粘土遊び、風船バレーなどの自由時間としました。

放射線の不安から普段屋外で遊ばないようにしている子どもたちにも思い切りからだを動かしてもらいたいという気持が強かったので、狭い集会所の中でもできる風船バレー等のゲームを行い大変盛り上がりました。

## ● ビックパレット仮設住宅集会所

ビックパレットの仮設住宅には小・中学生の子どもはいませんでした。今回の教育支援活動を現地の方が周囲に知らせていただいていたことにより、近所、保護者の車の送り迎えで子どもたちが集まってきました。毎日、開始時間より前にメンバーがくるのを子どもたちが楽しみに待っていてくれました。粘土で作品づくり、オセロゲーム、風船あそびなどをして子どもたちと遊びました。ここでも普段、思いっきりからだを動かすことができない子どもたちにとって、一番盛り上がったのは風船バレーでした。

学習支援とは別に、仮設住宅でのボランティアとして家具の組み立ても依頼されました。その際のメンバーの仕事が丁寧で親身になって話を聞いてくれた、と依頼主から仮設住宅事務所を通じ感謝の言葉をいただきました。

## ★ ボランティア活動を終えて

メンバーからは「子どもたちに勉強を教えたり、遊んだりと普段学校現場で行っているのと同じ活動なので、これでいいのか？もっとやらなくては？」と思ったが、子どもたちが思い切り汗をながして喜んでいる顔を見ると、自分はたいしたことをやっているつもりはなくても何らかの役には立っているのかなと思えるようになった。「避難所ではマジックショーやコンサートなど子どもたちに“非日常”を思わせる催しが日々行われ子どもたちを楽しませているが、これからは、震災で遅れてしまった勉強を補習する学習支援、心のケアなど日常を取り戻すために私たち教職員集団だからこそできるボランティアが必要とされるのでは」という感想をもらいました。子どもたちにとって8月末で閉鎖予定の避難所では日に日に遊ぶ仲間が減っていきます。そんな中で私たち教職員のボランティアは遊び相手、心のケア等で役立つのではと思います。

東日本大震災の被災地が復旧・復興に向かうなか、福島県における放射性物質への不安は現在進行形であります。子どもたちと室内遊びをする中で、子どもたちの「もっとからだを思いっきり動かしたい」という訴えを何とかできないかという思いで一杯になりました。これからも被災された方々が望んでいることを継続して支援していきながら「子どもたちが、外でのびのびと遊ぶ日が来るために私たちにできることは何なのか」と模索し続け、一日も早い原発事故の収束を願っています。



夏休みの宿題をもって  
子どもたちが  
やってきました！

風船バレーで思い切り体を動かしました！

子どもと一緒にけん玉をしました。  
コツを子どもたちに教えました！

